



図版①神策軍碑・北宋拓本



図版②伊闕佛龕碑・国図本



図版③ 始平公造像記



「落ち穂拾い記」

⑪

夫人程氏塔銘（上）

中国大陸を初めて足を踏み入れたのは、1980年10月末の秋の紅葉の美しい頃であった。当時三十代なかばであり、定時制高校勤務であった。古書店通いの中に知り合った中国書の輸入販売のT書店の社長から一緒に中国に行かないかと誘われた。北京の有名な榮宝齋の新生30周年の行事と出版の打ち合わせがあるとのこと。特別な仕事はなく、榮宝齋の記念行事である収蔵古代書画等の展覧会、宴会、有名書画家の筆会に参加させていただいた。見聞きするものの何事も、会う人も珍しく、興味深いものばかりであった。日中の出版の打ち合わせに同席してほしいと事前に依頼されていた。それで時間があれば、北京図書館(今の国家図書館)の碑法帖の閲覧を依頼していた。打ち合わせの翌日、現地の迎えの方とともに向き、当時文物出版社から刊行された北京図書館の重宝として名高い、『宋拓神策軍碑』(図版①)、『宋拓伊闕佛龕碑』(図版②)、『初拓始平公造像記』(図版③)等数件の善本拓本を手に取り閲覧する事ができた。『宋拓神策軍碑』は、柳公権の書であり、原碑は早くに失われ、宋拓とされる剪装拓本が唯一本(孤本)のみ伝来する名品である。『伊闕佛龕碑』は、褚遂良の壮年の作とされる楷書碑である。原碑は龍門にあるが、北京図書館の宋拓本は、他の善本とされる明清時代の拓本とは、碑面の破損が大変少なく、見ることでできる文字が大変多く、桁違いに優れている。『始平公造像記』も初拓とされる清朝後期の名家の題記のある整拓本である。当時最も興味をいだいていた碑帖であった。数日の北京滞在中、時間のあるときに北京の古書店がある琉璃廠へ行き、碑帖拓本を探したが、求める鄭道昭や龍門などの旧拓本はなく、粗末な薄い木の表紙の小型な拓本を手にした。剪装折本十開(二十ページ)ほどの唐の楷書拓本である(図版④)。小楷であるが、運筆にやや抑揚があり、伸びやかな楷書である。拓調、拓墨も良く、価格が手頃なので買い求めた。しかし、題簽もなく如何なる碑帖なのか当時は全くわからなかった。巻頭は、「□夫人程氏塔銘并序」の文字から始まる。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書道芸術院

令和の群像 (2020)



第62回毎日書道展 「蔵王讃歌」

國 嶋 一 春 書



濱田一堂先生と 書道芸術院

國 嶋 一 春

昭和32年9月小学2年生の時、従兄が通っていた書道教室へ連れて行ってもらいました。その時が濱田一堂先生に初めてお会いした時でした。先生は、背が高く、黒いベレー帽をかぶっていました。

三回目のお稽古で、全国学生書道展に出品する事になりました。墨、筆は先生のを使得してもらいました。大きな紙、大きな筆、濃い墨、そして、立って書く。みんなが見てる前で順番で書きます。書いた作品は、上級生が火鉢で乾かしてくれます。当時は画仙紙は貴重な物で、2枚か3枚で仕上げなくてはなりませんでした。先生の「合格」の声で作品が出きました。中学2年の時は準大賞を受賞し、学校に祝電が届きました。草野心平の「富士山」を細線、多字数の作品でした。書道は、文字を素材として、墨・紙で作品を創作する芸術と言われています。書道芸術院の素晴らしいところは、漢字、

小字、前衛、現代詩文、かな、篆刻、刻字…と幅広く、伝統的書風から書体に決まりが無く自由に作品を創作する事が出来る点です。

上掲の作品は、第62回毎日書道展に出品した作品「蔵王讃歌」です。小学生の時、妹とバスで一堂先生の書道教室に毎週日曜日通っていました。バスの窓から蔵王連峰(不忘山)を見るのが楽しみでした。夏は登山、冬はスキーと…思い出の山です。この作品は、羊毛中鋒、濃墨で細線・渴筆と文字の構成は蔵王の山を思いながら書く事ができました。

60年以上濱田一堂先生に教えを請うてきました。先生亡きあとは、一門の堂光先生、無極先生、菊池富美子先生、秀碧先生に御指導をいただきながら作品を書くことが出来ました。一堂先生の、あの細くて長い指先から素晴らしい作品が生まれてきた様に、私も作品を書ける様に練習していきます。

ここまで書にかかわってこられた事感謝申し上げます。

書のひろば

理事長 辻元大雲

書道芸術院秋季展無事終了 会場風景動画をホームページに

先月号でも触れたが、書道芸術院秋季展は10月6日より11日まで、セントラルミュージアム銀座とアートサロン毎日の2会場が無事開催された。コロナウィルスの蔓延の影響は免れず、参加者は820余名であったが、展示された作品群は両会場とも充実し、書道芸術院の本領を発揮し、漢字から前衛書まで多彩な内容で、好評を博した。

セントラル会場で予定された表彰式、作品研究会、祝賀懇親会などはいずれも中止となり、またアートサロン毎日の「書道芸術院の書・現代詩文」17人展の外部講師による作品研究会も開催できなく、誠に残念であった。

また、コロナ禍により本院主力の地方会員はほとんど会場に来られず、出品された方々も同様であった。このため急遽会場展示風景をビデオ撮影し、DVDに収録し出品者全員に作品集と共にお送りすることとした。作品集は出品者全員と本院総務以上の方に後日贈呈することとなっている。作品集と併せ「秋季菊花賞」選評、17人展外部

講師作品個評(院担当理事、辻元大雲・小竹石雲・坂本素雪個評含む)も添付してお送りすることになっている。

更に秋季展会場風景動画を書道芸術院ホームページにも掲載することになっている。10月下旬にはご覧になれるので、地方の方や会場にお出でになれなかった方は、是非ご活用いただきたい。

「書道芸術」漢字研究・かな研究 臨書動画をホームページに掲載

月刊競書誌「書道芸術」では競書部門の拡充、記事掲載の充実など編集努力を重ねてきている。4月から始まった「実用書」「篆刻」は内容の多彩さを物語る好例である。特に実用書では毎回70点前後のご応募をいただき、予想を上回った。紙面の関係で入選者以上の氏名掲載が1割くらいと少なく、申し訳ないがご理解いただきたい。

書道芸術院のホームページでは、公益法人としての組織、定款など必須の掲載の他、月間「書道芸術」「書道芸術学生版」の最新号の競書手本、図版などを毎月更新して掲載している。先般開催した「書道芸術院秋季展」など時期に合わせた企画内容なども掲載している、是非ご覧いただきたい。

臨書研究部門参考動画掲載

今回新内容として「書道芸術」競書の「漢字研究」及び「かな研究」の臨書

課題を編集部より依頼して動画撮影し、ホームページに掲載することとした。

10月号(74号)より試験的に始め、11月号から本格的に行うこととしている。

・漢字研究(石鼓文・担当辻元大雲)
・かな研究(十五番歌合・担当辻元大雲)
ホームページトップ画面の右側に出現「書道芸術院動画コーナー」の「書道芸術2020年10月号漢字研究参考画面」「同 かな研究参考画面」をクリックすると視聴できる。

特に今月の課題は漢字、かなとも臨書課題として技法的にやや難しい内容であることから、皆さんの練習の手助けになればとの思いから企画した。

今後反響などを考慮して、できれば継続していきたいと思っている。ご意見などお寄せいただきたい。

毎日展企画「書の時間」紙上公募展 本院から6名選抜される

「書の時間」企画第2弾、紙上公募展は500余点の応募。10月16日の毎日新聞紙上にて入選作29点が掲載発表され、本院会員が6名選抜され、大活躍した。ご協力に感謝。

・入選者 飯島律子(かな・群馬)、
柿沼彩香(近詩・千葉)、高橋奎媛
(近詩・宮城)、高島洸蓮(前衛・宮城)、根本雅子(かな・群馬)、向井翠窓(大字・大阪)

第73回毎日書道展に向けて

本年は残念ながら開催を見送った毎日書道展は、第72回展として来年にそのままスライドして開催することとなっている。現在も蔓延の影響は収まらず、今後どうなるか判断を許さない状況だが、会員諸氏には作品制作を怠りなく、頑張っていたいただきたい。

第72回展の当番審査員、会員賞選考委員、審査事務など組織は、本年2月の運営委員会決定している内容で進められることに原則的には変更はない。

一部諸会派の都合で担当変更があることも予想される。地方展などの組織も同様であるが、院関係諸氏にはご協力、ご支援をよろしくお願いしたい。

来年の日程では、作品搬入日、鑑別審査方法などは検討中。展覧会会期など決定事項は以下の通り。

国立新美術館

前期(かな・近詩・前衛)
I期(7月7日～12日)

II期(7月14日～19日)

後期(漢字・大字・篆刻・刻字)
I期(7月21日～26日)

II期(7月28日～8月1日)

東京都美術館

(7月18日～25日)
表彰式 7月18日13時

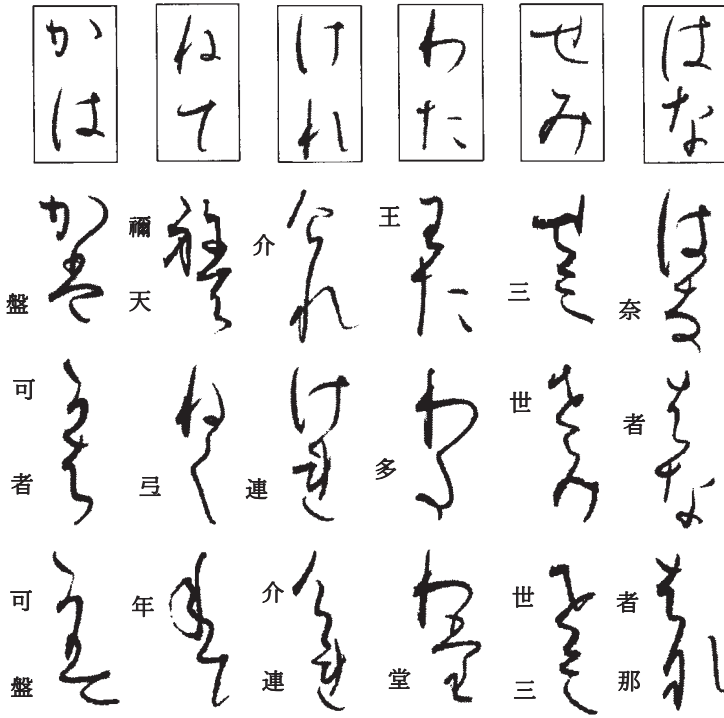
ザ・プリンスパークタワー東京

(規模縮小予定、祝賀会など未定)

連綿 (2)

*Dコース(最も連綿線が長い)を変体がなを用いて連綿する

A・B・Cのコースにすると、連綿線が短くなり連綿しやすい



【変体がな】明治年間、政府は、現在使っている一音一字の平がなを定め、以来、それ以外の異なる形をしたかなのことを変体がなと呼ぶようになった。今日では、かな書道において使われている。〈基本的古筆による主な変体がなを60〜62ページに掲載〉

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座 (6)

【臨書から現代詩文書への展開】

漢字とかなの調和においては、文体から見て意味を持つ漢字とそれを美しく柔軟に補っているのがかなの存在である。書線に诗情があればおのずと調和する(駒井鸞静)

① 造像記風(賀蘭汗造像記)のひらがなの表現方法

- ・前述の駒井先生のかなの捉え方を参考にした。書線に诗情をもたらし、文字の歪みや傾きを加えて書いてみた。
- ・漢字との調和を考え、かなを直線的にした。また造像記ということ、断ち切ったような力強さで表現してみた。



② 造像記風(賀蘭汗造像記)の現代詩文書

- ・剛毛中鋒を使用して、鈍(なま)のような刃先の厚いものでブチ切るような豪快さで、一気呵成に書ききった。力むと線が硬くなるので注意したい。
- ・筆のワレなど意識せず、体当たりに全身全霊で紙面に傾注した。
- ・小手先の仕事にしない。一心不乱に立ち向かう気概が大切。
- ・同速同圧になると平板に見え精彩感がなくなる。
- ・詩文の内容と書風が合致することは言うまでもないこと。他の詩文にも挑戦して力強い逞しい作品制作を心がけよう。



書道芸術院 秋季展

書道芸術院役員・審査会員選抜・
審査会員選抜

併催 「書道芸術院の書・現代詩文」展

会期 令和2年10月6日(火)～10月11日(日)
会場 セントラルミュージアム銀座
アートサロン毎日

秋季展実行委員長

小竹 石 雲

コロナ禍の中で万全な感染症対策を
行い、書道芸術院秋季展がセントラル
ミュージアム銀座・アートサロン毎日
で開催された。

本年度の出品内容は、財団役員63名、
審査会員選抜53名、審査会員候補公募
173名、308点の中から厳正な審査が行わ
れ、秋季菊花賞10名、秋季俊英賞40名
の50名が選ばれ総数166名の作品が展示
された。

評議員では9名が大作を出品した。
展覧会場は昨年から壁面を一面増や
しており、全体に見応えのある展示と

なった。コロナ禍の中で受付等も縮小
され、表彰式、研究会及び祝賀懇親会
も中止された。

アートサロン毎日では、「書道芸術
院の書・現代詩文」展が開催された。
今年で3年目となり、書道芸術院の全
部門が終了した。このような状況下で
外部講師による研究会等は中止され、
外部講師の先生（書燈社顧問 船本芳
雲先生、創玄書道会副理事長 永守蒼
穹先生）にはそれぞれコメントを戴き
後日印刷してお配りする事とした。
本年も週末に台風の影響が心配され
たが、幸い太平洋側に反れ影響は雨だ
けであったが、来場者についてはコロ
ナ禍の影響で少ない状況でした。

最終日は午後5時に両展が閉会し、
撤去作業も無事終了した。各担当者の
ご労苦に対し心より感謝申し上げます。
參觀者はセントラルミュージアム銀
座が、622名、アートサロン毎日が196名
で、合計で818名でした。今回はコロナ
禍の中での開催となり、出品者も含め
地方の方の来場が少なかった。

2020年 書道芸術院秋季展公募出品集計

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	選外
漢 字	117	64	3	15	46
か な	9	8	1	2	5
現代詩文書	72	46	3	10	33
篆刻・刻字	0	0	0	0	0
前 衛 書	110	55	3	13	39
合 計	308	173	10	40	123



セントラルミュージアム銀座



アートサロン毎日

書道芸術院秋季展

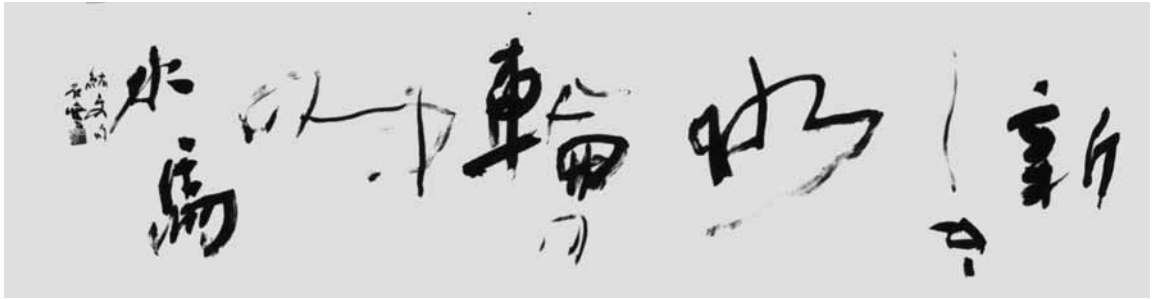
会場 セントラルミュージアム銀座（紙パルプ会館）



〈黛執の句（黛執）〉

（公財）理事長・常任総務 辻元大雲

135×35cm



〈水馬(倉田紘文)〉

(公財) 常務理事・常任総務 小竹石雲 35×137cm

〈禅語一類〉



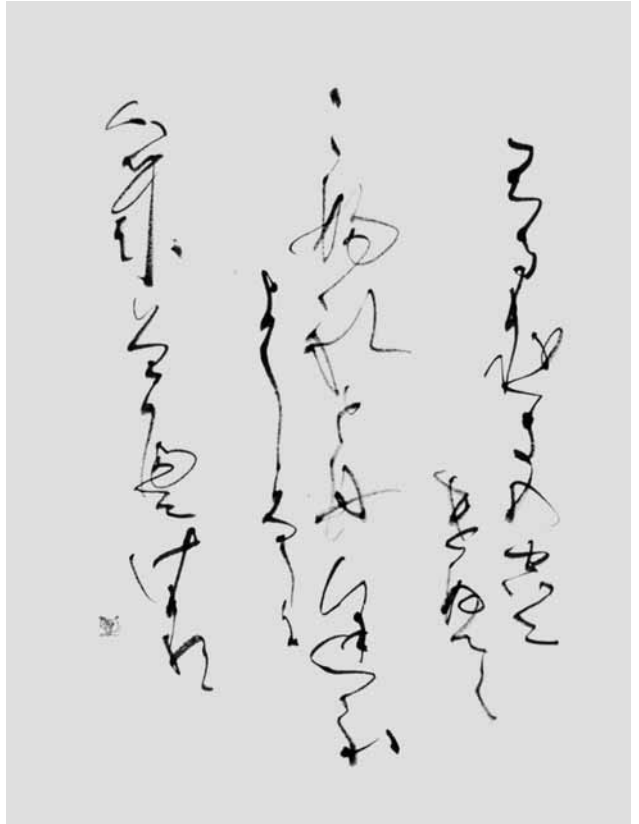
(公財) 常務理事・常任総務 後藤大峰



135×35cm

〈恋うた(万葉集)〉

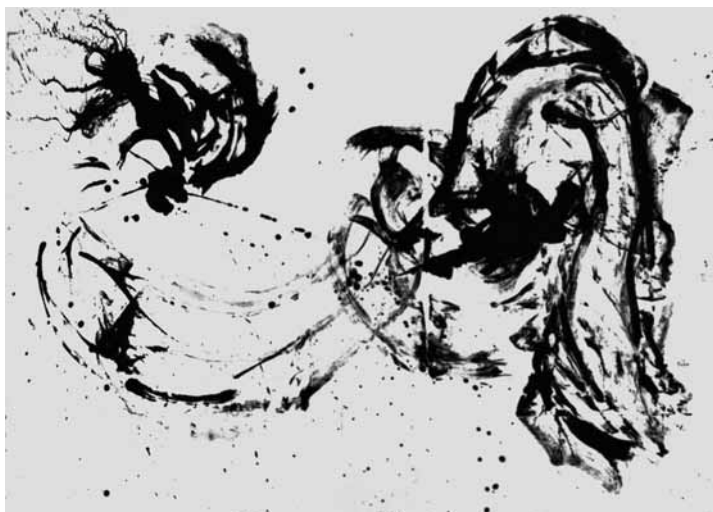
(公財) 常務理事・常任総務 下谷洋子



75×60cm

評議員大作

〈時の流れ〉



太田蓮紅 120×180cm

〈ジョン・ダン詩「嘆くのを禁じて」より〉



工藤永翠

243×91cm

〈早發白帝城(李白)〉



加瀬澄春

233×82cm

〈時〉(坂村真民詩)



佐藤無極

138×138cm

〈無窮〉



崎井恵風

240×90cm

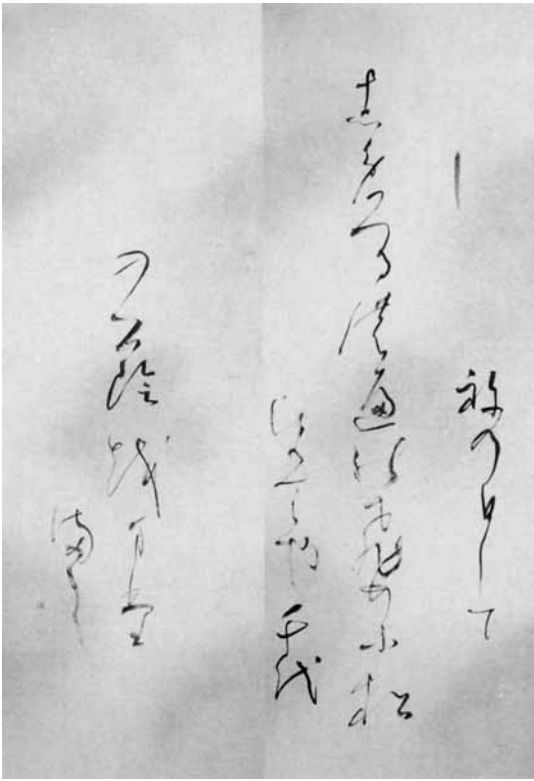
〈十一月〉(伊藤整)



西岡雨瑤

133×140cm

〈ねの日して(藤原清正)(新古今和歌集)〉



平川峰子

169×118cm

〈馨徳〉



佐藤菜扇

240×90cm

〈和城弘志の句(和城弘志)〉



山崎掃雪

150×150cm

審査会員候補
秋季菊花賞

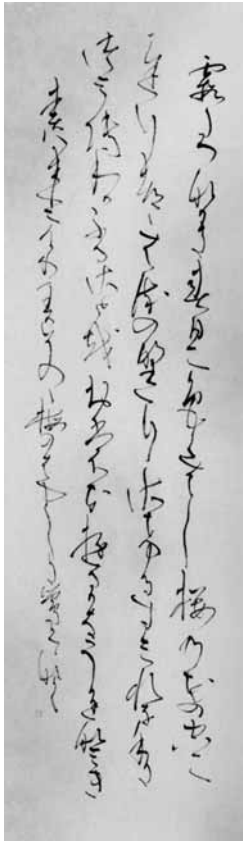
〈挑〉



市川将義

91×121cm

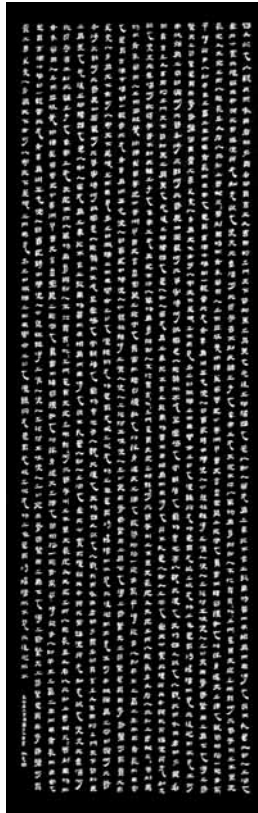
〈霞立つ(良寛)〉



知野久美子

182×61cm

〈馬王堆漢墓帛書〉



桐林狐无

178×57cm

〈執〉



柳隆扇

121×91cm



〈白い嶺(東山魁夷)〉

大友四峰 58×178cm

真島昌利の詩



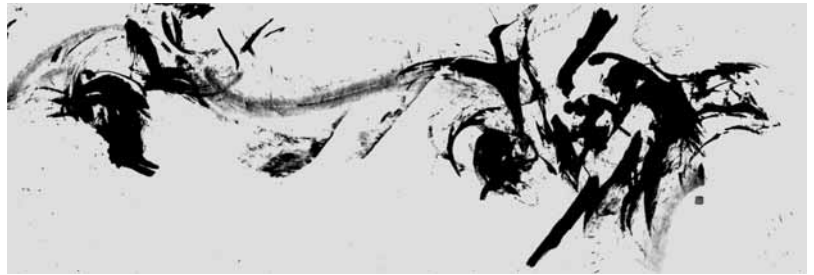
182×61cm

西山葵龍



〈港市の秋(中原中也)〉

笠原紫玉 58×179cm



〈望〉

早坂萌香 60×180cm

奏



152×73cm

齋藤友香里

家(ステイホーム)



平田悦子 88×118cm

〈併催〉「書道芸術院の書・現代詩文」展

会場 アートサロン毎日（竹橋・パレスサイドビル）

《天野白扇》



〈酒井鱒吉の句〉

170×110cm

〈波の胸騒ぎ(谷川俊太郎詩)〉



《阿部恵泉》

175×55cm

《岩崎陽光》



〈宮倉浅子の句〉

90×90cm

《片岡豪峰》



〈夜の帳がおりて(自作)〉

145×139cm

《大平房子》

〈乗り越える(自作)〉



179×60cm

《菊池 富美子》



〈焰の時(菊池優詩)〉

144×144cm

《金濱 珀燐》



〈ことだま(尾形崇詩)〉

180×60cm

〈川口真理の句〉



《北嶋 菁湖》

110×170cm

《木村 笙園》



《影の視線(寺田和子詩)》

《佐藤 弦佳》

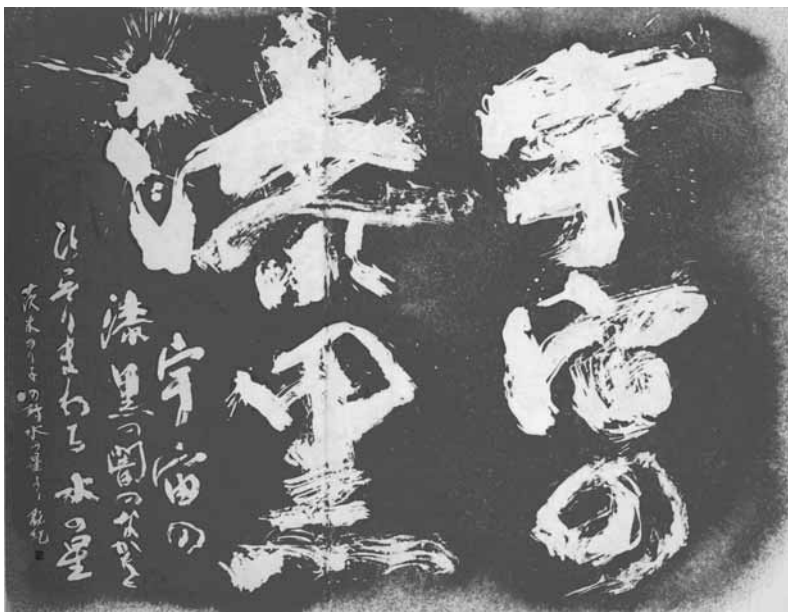


《武烈御陵(自作)》

171.5×88cm

《桐岡銘紀》

240×90cm



《水の星(茨木のり子詩)》

132×175cm

《桑原明珠》



〈富士山(草野心平詩)〉

85×176cm

〈若山牧水 短歌一首〉



240×90cm

《鈴木承琳》

〈雪降る(東山魁夷詩)〉



240×90cm

《佐藤初香》

《鈴木英晴》



180×60cm

《田淵行男の詩より》

《田中扇溪》



180×81cm

《三宅佳峰》

《秋（えんぶり）（自作）》

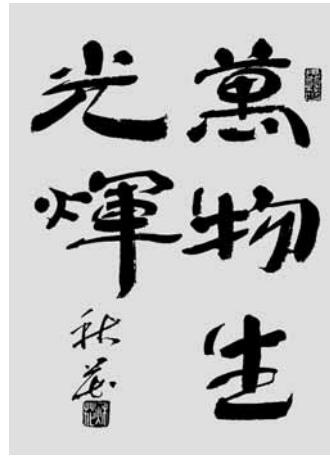


177×58cm

《水滴（住宅顕信句）》



浪川 秋花
(千葉)



「萬物生光輝」

審査会員にご推挙頂きありがとうございます。小学1年生の娘と共に踏み入れた書道の世界。恩師亡き後、長きにわたり加瀬澄春先生のご指導を頂けるとなりました。感謝致しております。「萬物生光輝を生ず」いつの日か私の作品も輝いてくれることを願い精進してまいります。
(秋花)



橋本 紅霞
(福島)



「さくら色に」

かな部審査会員昇格大変嬉しく光栄に存じます。雅なかなに魅せられ、加藤先生、庄司先生、玉松会石井先生のご指導のもと、今があることに感謝の念で一杯です。尽きることはない古典への探究や古筆への学習も一層の研鑽を続けてまいります。
(紅霞)



丹波 美恵
(富山)



「絆」

この度は、思いがけず審査会員に昇格させて頂きありがとうございます。師の津田海仙先生、諸先生方のご指導に心より感謝致します。荷の重さを感じつつも「新たなスタート」と肝に銘じ、精進して参りたいと思っております。
(美恵)



平野 篠風
(千葉)

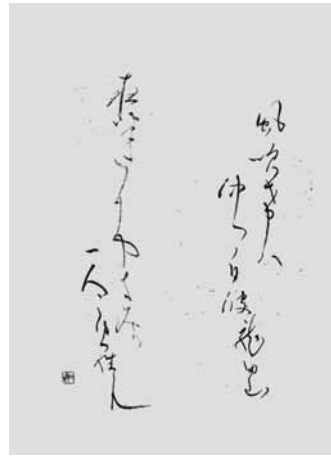


「翰墨戯」

この度は審査会員にご推挙頂き感慨無量です。ひとえに故古橋飛山先生の熱心なご指導の賜と感謝し、先生の遺影に報告させて頂きました。また、東総書道会の仲間へ深く感謝し、心新たに書の道に進進したいと念じています。ご指導よろしく申し上げます。
(篠風)



藤原三枝子
(埼玉)



「風吹けば」

永井幸子先生の作品にあこがれて入門。高橋松延先生、見越雪枝先生のもと、玉松会の先輩、書友に恵まれて継続する事が出来ました。見せ場の作り方、線質、渴筆の変化等悩む事が多くかなの奥深さを感じます。今後共ご指導をお願い致します。

(三枝子)



山田明子
(富山)



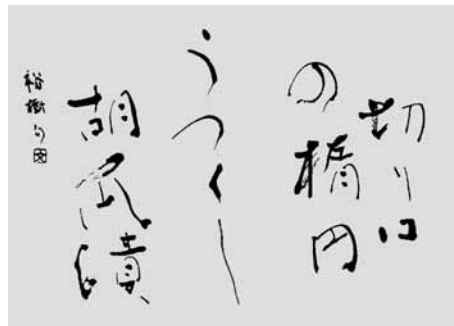
「明」

趣味で始めた書でしたが、津田海仙先生をはじめ書径舎の先生方のご指導のおかげで前衛書と出会いました。大作に挑戦し、展覧会に出品する喜びを得ることができるようになりました。古典を学び、躍動感のある楽しい作品を心がけていきます。これからも研鑽していきたいと思えます。

(明子)



本間文苑
(福島)



「楢円」(堀本裕樹句)

昇格の報は、何かガツンと一発来た気がし、今までの様には行かないと身が引き締まる思いです。諸先輩方のご指導で参りましたが、これからも、感謝と共に一層食欲に吸収し、研鑽を積んで行きたいと思えます。

(文苑)



湯田柳桂
(宮城)



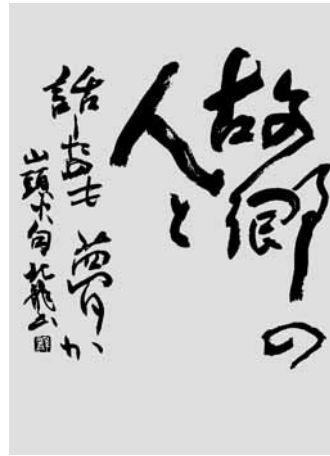
「中村汀女の句」

小学6年生の時、書き初め講習会に参加した折、私の作品を見た加藤翠柳先生から「おお将来有望だな。」とお言葉をいただきました。そのことが書の道に進むきっかけとなりました。今は師の狩野翠桂先生と宮城野書人会の諸先生、そして仲間の皆さんに心より感謝致しております。

(柳桂)



小林北龍
(宮城)



「種田山頭火の句」

この度は、審査会員にご推挙頂き有難うございます。故今野深泉先生はじめ宮城野書人会の諸先生方の御指導の賜物です。現代詩文書を創作するときは、余白・線質・潤濁等を意識して書いています。これからは昇格に深く感謝して、なお一層の努力を重ねて参る所存です。

(北龍)



栗原由紀
(広島)



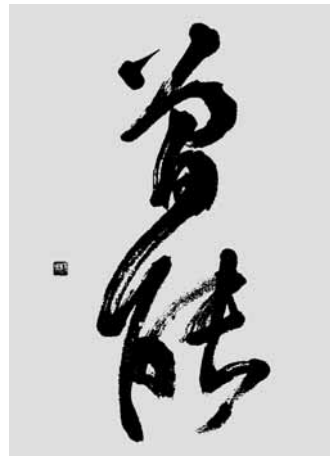
「十返舎一九のうた」

気候温暖で風光明媚な広島県尾道市には、古来より多くの文人墨客が訪れ詩歌を残している。江戸時代に活躍した十返舎一九が尾道を訪れ、この詩を詠んだ風景は、今とどんな風に違っていて、どこが変わらずにいるのだろうか…。文学の小道に佇む石碑は、孔雀の様に光る海を見下ろしている。

(由紀)



佐野静城
(大阪)



「曾能(その)」

この度は審査会員にご推挙いただき有難うございます。諸先生方のご指導に心より感謝しております。昨年十月の春洋会書展で万葉集より、「令和を書く」をテーマに出品した作品を再度書いてみました。「梅花の歌三十二首并に序」より「曾」と「能」を選び「その〓園」としました。

(静城)



成澤香蓮
(宮城)



「父」

この度は審査会員にご推挙頂き誠に有難うございます。ご指導を頂きました太田蓮紅先生はじめ諸先生方に深く感謝申し上げます。この作品は、幼き頃に熱心に書を練習していた優しかった父の姿を思い出しながら表現しました。初心を忘れることなく今後も研鑽を重ね精進してまいります。

(香蓮)

※今年度の新審査会員の紹介を終了いたします。

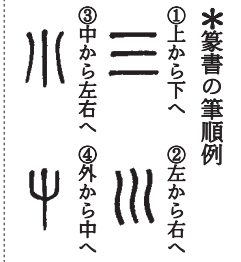
石鼓文

戦国(秦)

②

〔解説〕石鼓文の書体は「大篆」と呼ばれ、のちの「小篆」に近く、字形や筆使いの面でも共通点が見られる。その特徴は、①起筆は逆筆・藏鋒②送筆は筆先が線の中央を通る中鋒③收筆は軽く止め、真上に引き上げる④線の太さは均一⑤横画は水平、縦

画は垂直⑥字形は縦長で、左右相称形が多い⑦画と画の間(分間)がほぼ均等、などがあげられる。また、篆書の筆順については一定の決まりはないが、①上から下へ②左から右へ③中から左右へ④外から中へ、と筆を運ぶと形を整えやすい。(編集部)



(掲載図版・70%に縮小)

(第二鼓・汧岐篇) 汧岐沔々。沔々／皮淖淵。鯨／鯉處之。君／子漁之。溝／又鯨。其旃

*図版の骨子が59ページに掲載されています。参考にして下さい。

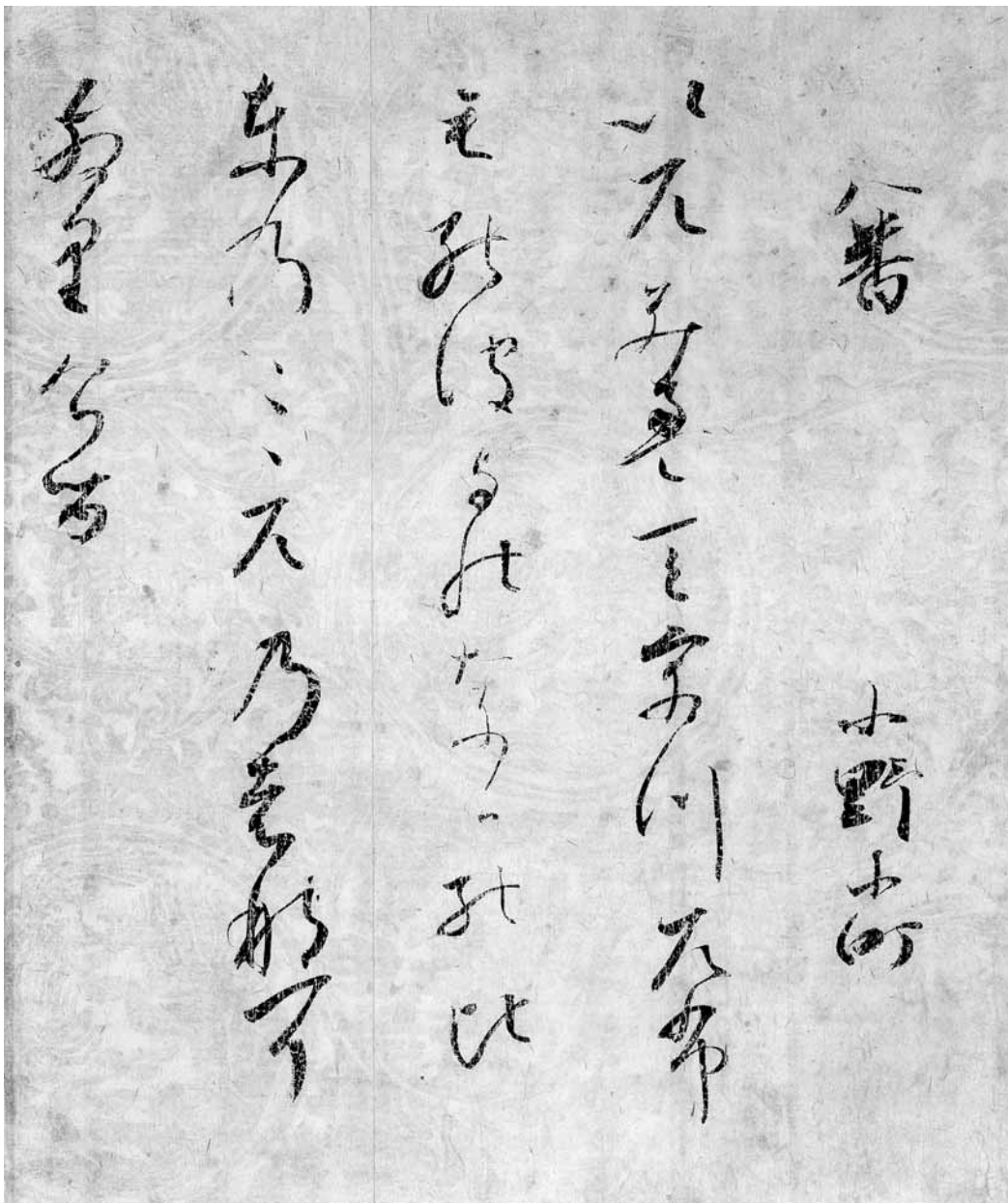
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の一部 毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の一部 半切1/2以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

十五番歌合
(伝藤原公任筆)

②



(前田育徳会所蔵)

(掲載図版・65%に縮小)

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

〔半紙普通判(料紙可)・縦長に使用〕
別紙を裁断して貼付も可。半横紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
A. 大作の部 毎日展覧審査員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部 半切以上、半切以内(全紙約68cm以内も可)(縦横目用)
△当該古筆の左記掲載部分以外も可▽

〈よみ〉

八番 小野小町
いろみえでうつろふ
毛筆故と筆本可
ものはよのなかのひ
東乃日日乃那那耳
とのころのはなに
ざりける

〔解説〕十五番歌合は平安朝の他の古筆とは異なる、大ぶりの草仮名による力強い表現が特徴である。万葉仮名の草書体の草と、草を簡略に書き崩した女手とを混用し、全て和歌一首を四行に書いている。行間は広く、文字と文字との間をとって書写されている。二字または三字を続けて書いているが、連綿体というより、むしろ放ち書きで上の文字と下の文字とを線で続けて書いているだけで二字または三字を一字のように書いていない独草体である。用筆は側筆であることが第一の特徴である。現在、原本の歌八首と中院道村(1588-1653)の補写の歌二十二首との卷子本が前田育徳会に所蔵されている。ほかに六首の歌と二行とが残っている。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。

○○臨(押印のみも可)

漢字規定 初段以上 【十二月十日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



楓葉蘆花

よみ (楓葉蘆花)

書体 自由

習い方解説 (二)

辻元大雲

楓葉蘆花
(楓葉蘆花)

(蘇軾)

今回も四字句です。やはり秋の情景を草花に託して読み上げた語句です。

前回と比べやや細身の細やかな表情を意図しました。楮遂良の枯樹賦の雰囲気を意識して、細やかな表現を狙っています。

穂先のやや鋭い、羊毫長鋒を使用。自然なリズム、バランスよい配字などにも配慮してください。

半紙での競書は基礎的な力を養う上で大いに効果があります。

様々な古典臨書で培った表現技術、理論的な知識などが積み重なって、更にステップアップが出来ます。

漢字規定 秀級以下 【十二月十日締めきり】 用紙 半紙普通判

名越蒼竹選書

天辨

蒼竹

資博

天資辨博

よみ (天資辨博)

書体 楷書

習い方解説 (二)

名越蒼竹

天資辨博

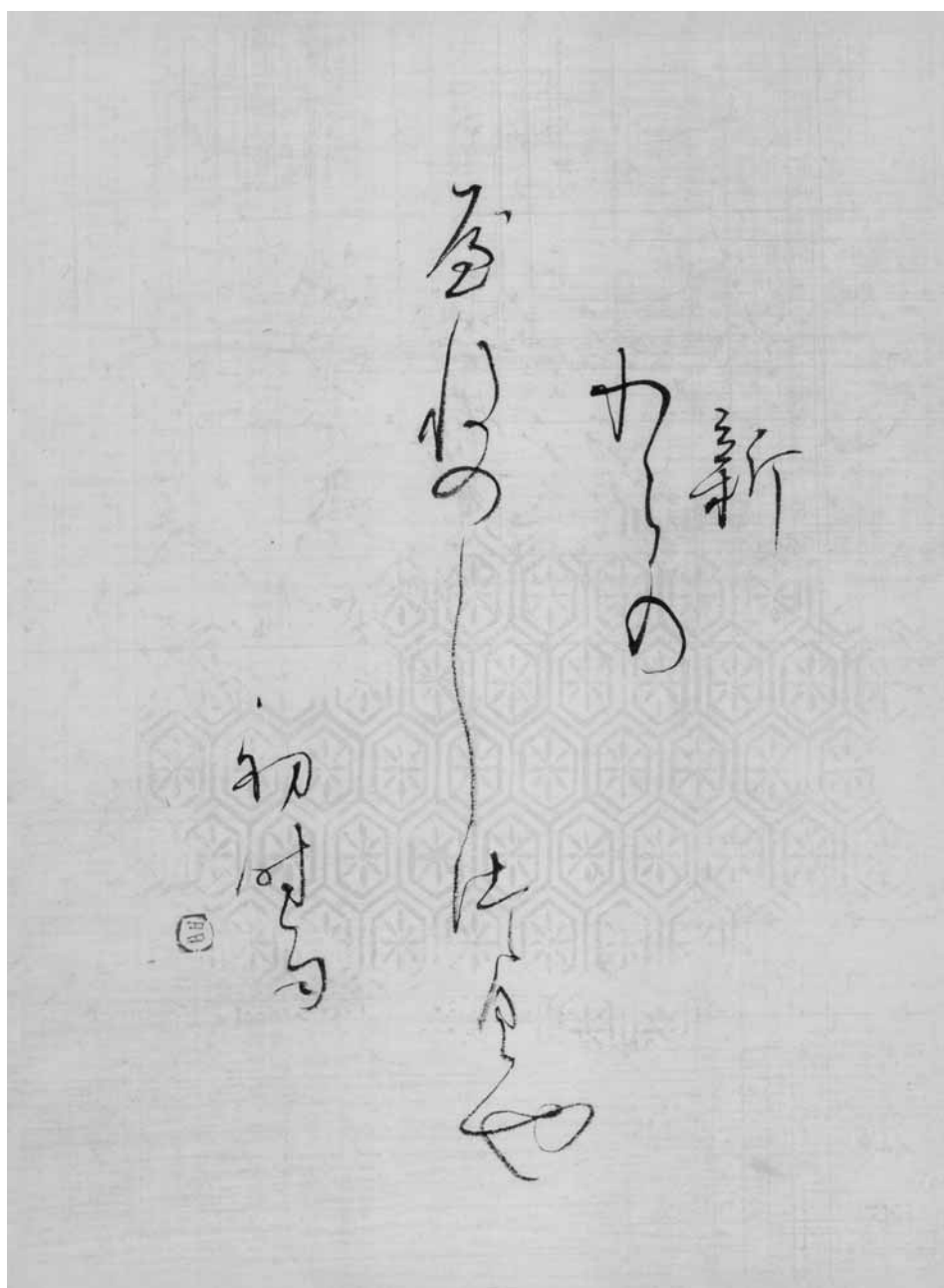
(天資辨博)

(風俗通)

生まれつき才学が明らかで広い。

楷書は初唐三大家の時代に完成したと言われています。完成とは「これ以外に考えられない」ということを意味しますから、学ぶ立場からすると、自由や遊び心のない厳格さが重苦しいわけですが、一度はくぐり抜けなければならぬ関門だと思えます。今回は虞世南の孔子廟堂碑を意識して書きました。始筆・終筆・点画の角が穏やかで字の手足が長く、向勢の形を持った上品さが特長です。好き嫌いがあったとしても、本格的に書を学ぼうとする人ならば、初唐三大家の書風はぜひ自家薬籠中のものとしておくべきでしょう。

かな規定 初段以上【十二月十日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可) 大辻多希子選書



よみ方 新薬(しんや)の屋根(やね)の雫(しづく) (し徒具)や初時雨(はつしぐれ)

創作

習い方解説 (二)

大辻多希子

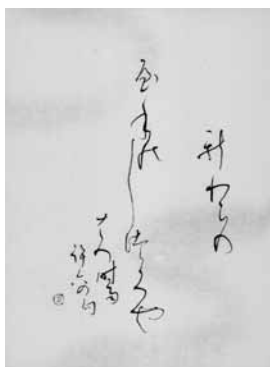
新薬の屋根の雫(しづく)や初時雨(はつしぐれ)

(森川許六)

森川許六は、江戸時代前期から中期にかけての俳人。蕉門十哲の門人であり芭蕉の絵の師。

上掲の作品は、中央の行を横に張る線と縦に流れる線を入れて構成しました。特に俳句は、短歌と比べ文字数が少ないためさびしい作品にならないよう気を付けましょう。今回の作品は、3行目に長いしがありませんが、細い線は軽く見えます。速く書くと弱くもなりますから注意して下さい。筆先が線の中心を通れば、細くても力強い線が出来ます。筆先の開閉による弾力に集中しましょう。

〈参考作品〉

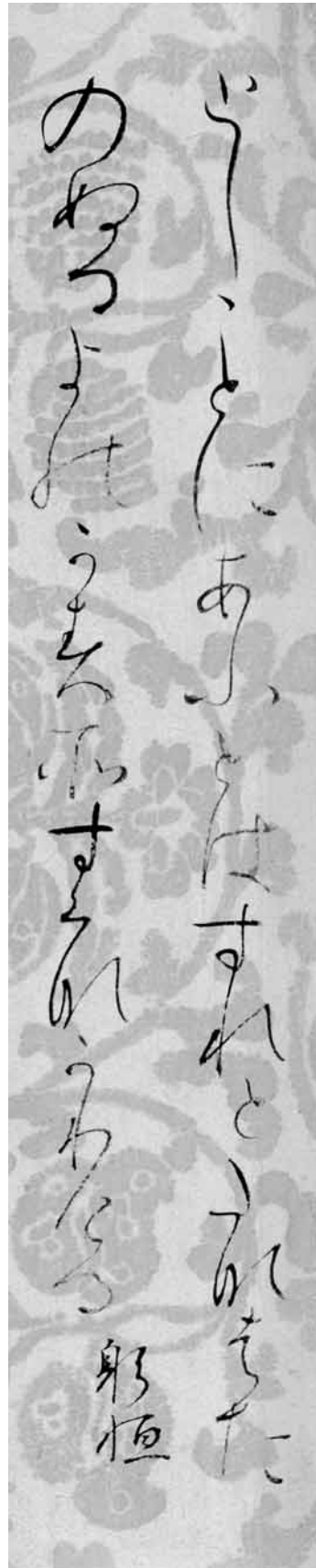


* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

かな規定 秀級以下 【十二月十日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方

としごとにあふとはすれどた(多)な(那)ば(者)た
のぬるよの(能)か(可)ず(春)ぞ(所)すく(久)な(那)か(可)り(利)け(介)る躬恒

習い方解説 (二)

佐藤 希雲

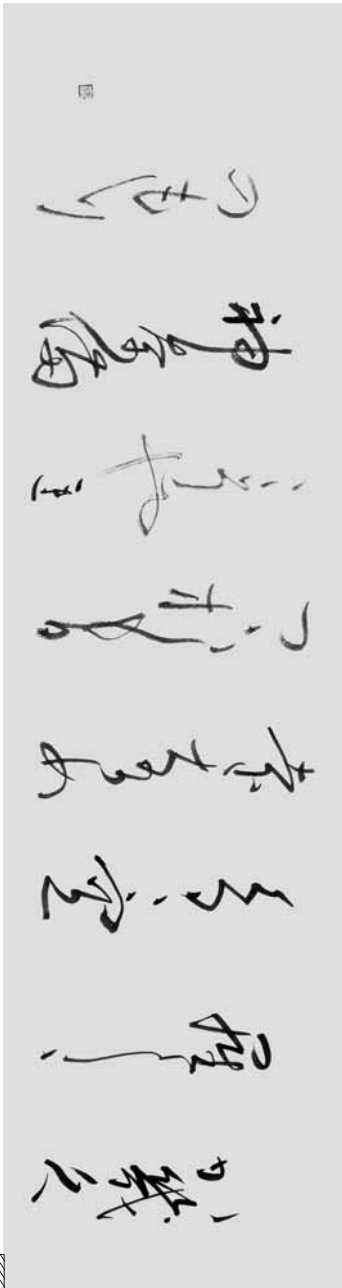
かきくらししぐるる空をながめつつ
おもひこそやれ神奈備のもり
おもひこそやれ神奈備かんなびのもり

(紀貫之「拾遺和歌集」)

歌意は「時雨が空一面を暗くして降る様子を眺めながら、神奈備の森を思いやることだ。」

上部を山型にして8行でまとめました。踊り字(繰り返し符号)が3回出てくるので、その処理が難しいかもしれませんが。行間に留意して書いてみてください。

*ヨコ形式に限る



かな条幅規定 【十二月十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

佐藤 希雲 選書

よみ方

かき(幾)く(久)ら(羅)し(之)し(こ)ぐ(久)るる(く)空を(遠)な(奈)が(可)め(つ)つ(く)
お(於)もひ(日)こそ(曾)やれ(連)神奈備のもり

創作

出品券
貼付位置

漢字条幅規定 初段以上 【十二月十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄書



李白一斗詩百篇 長安市上酒家眠 (杜甫「飲中八仙歌」)
(李白 一斗 詩百篇 長安市上酒家に眠る)

書体||自由

習い方解説 (二)

千葉蒼玄

杜甫の「詩聖」に対して李白は「詩仙」と呼ばれる。ほかの7人は知らなくとも李白、杜甫を知らない人はいないだろう。

今回は李端詩の切れ味のいい線を使ってみた。筆の先が紙に触れ根元まで一気に開く、まさにジェットコースター並みの上下運動である。これが「絵画の線」と「書の線」の違いだという人も多い。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【十二月十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大隅晃弘選書



不爭而善勝 (老子)
(争わずして善く勝つ)

書体||自由

大隅晃弘

習い方解説 (二)

鄭道昭の風を用いての書作です。雄大さ、素朴さなどが鄭書の魅力ですが、造像記に見られる厳しい方筆を加えることで、骨格のしっかりした力強さを目指しました。

長鋒気味の羊毛筆と中濃墨で、紙面との筆蝕を感じながら、線質の変化を楽しんで書きました。

作品の狙いに係る用具用材の選択は、作家の個性の見せ所です。

「自由民権運動の父」板垣
退助の名言「板垣死すとも
自由は死せず」は、明治
時代の一大流行語となり
ました。舟錦書

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体||自由

【注意!!】用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (二)

川島舟錦

質問2

「ペンが書きにくいのですが、どうしたらスムーズに書けますか?」

「たくさん書いてペンに慣れるまで、一年我慢してください。自分でも信じられないくらいの成長を遂げますから。慣れたら書くのが楽しくなります。」

一年なんてあっという間。
もう一つノ上手な人の書いているところを見て、リズムなどを、盗むことですね!

「自由民権運動の父」板垣退助の名言「板垣死すとも自由は死せず」は、明治時代の一大流行語となりました。

先生各位 向寒 風の冷たさが
先生各位 向寒 風の冷たさが
先生各位 向寒 風の冷たさが
朝夕の寒さが身に沁みる季節となって
朝夕の寒さが身に沁みる季節となって
朝夕の寒さが身に沁みる季節となって

大平邑峰

(楷書) 先生 各位 向寒 風の冷たさが
(楷書) 朝夕の寒さが身に沁みる季節となって

(行書) 先生 各位 向寒 風の冷たさが
(行書) 朝夕の寒さが身に沁みる季節となって

基本用語

「先生」学校の先生や、特に重要な相手に使用する場合もある。「各位」大勢の人のそれぞれを敬つていう言葉。皆さま方。

(掲載手本90%に縮小)

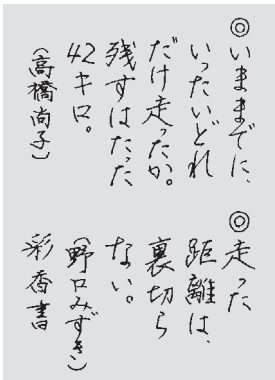
- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

ホープ作品 各部総評

NO. 713

ペン字部 師範 柿沼 彩香

天地左右の余白が生き均斉のとれた作。字形安定し過剰な表現を抑え伸びやかな筆致は美しく秀逸。
◎ペン字部総評 上下の構成で字間行間のバランスに注意不足の作が多かった。ペンも筆と同様遅速のリズムも習得したい。(雪枝評)



かな条幅部 準師 小峰美加子

小ぶりではあるが、しなやかなリズムが美しく、転折から発する動きの変化が多様で群を抜く。抑えた表現も叙情漂う。
◎かな条幅部総評 与や哉など理解に欠けた誤字が散見。文字の大小が過剰になると品を欠くので、自然な流れに留意したい。(洋子評)



現代詩文書部 特選 穴戸 珠葉

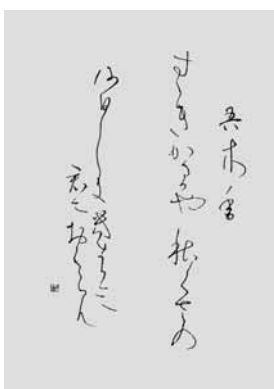
構成、余白の取り方成功、動きもあって落款に到るまで気配りが見られ頼もしい作。期待大。
◎現代詩文書部総評 創意工夫も必須だが、先ずは基礎文字の鍛錬をして欲しい作多し。(梓江評)



漢字条幅部 師範 岡部 藤瓊

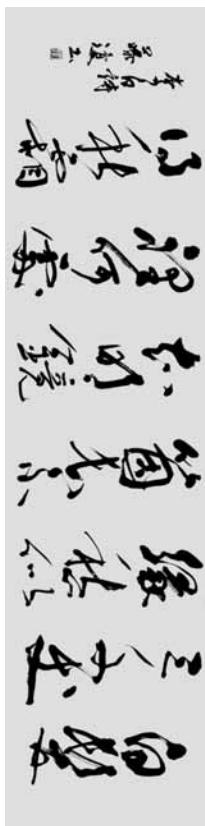
文字を大切に安定した書きぶりに眼が止まる。余白の美しさが一段と上品な秀逸作品と成し得る。

かな部 師範 野村 知
大きな動きが華やかさを生みながら、歌意には反せず現代的独自の世界となった表現力は美事です。
◎かな部総評 漢字の吾、君に誤字が散見で残念。旧かな遣いにも不注意な人が多かった。解説はルビまで見落とさず学習を。(明子評)

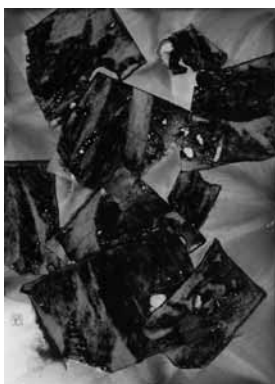


漢字部 師範 井ノ口春峰

切れ味よい筆致が紙面にリズム感を生じ、充実した作。落款の調和もよく、まとまりあり。
◎漢字部総評 上級5文字表現はやや萎縮した作が多かった。紙面に大きく広がる作を望む。下級楷書は基礎力の養成を。(大雲評)



◎漢字条幅部総評 横形式作品を見事に変化をつけ、素晴らしい作が多く努力の成果が現れた。磨かれた線の響きに絶賛。(藤扇評)



前衛書部 特選 佐藤 奎山

大胆な構図でメッセージ力のある作。立体化した造形は深く響き心を揺さぶる。今後期待している。
◎前衛書部総評 積極的に創意工夫した作品多数で見込めがあった。楽しい作品に期待する。(蓮紅評)



今月の

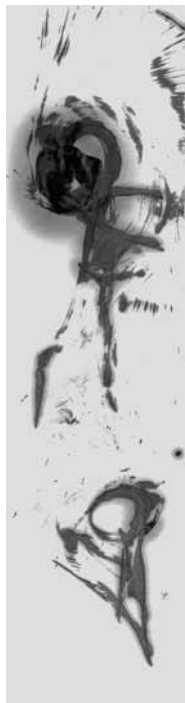
特別研究部優秀作品(特選)

選評 山口仙草 半田藤扇 白石和楓 木村東舟

小品の部

前衛書 (秀恵)

阿部雅悠
「生生流転」



135×35cm

◆長峰を駆使し、拡がりのある作品に仕上げた。墨色、滲みもよく味わい豊かで見応えあり。(仙草評)

阿部雅悠書

かな

(書景)

鍋島弘子
「我がやどの」



鍋島弘子書

135×35cm

◆筆先を利かせて、すっきりと清々しい作。潤渇の變化もよく、構成に變化を持たせ努力が窺える。(東舟評)

(東舟評)



高橋清淋書

135×35cm

◆古隸の雰囲気、氣を醸し出し、白と黒の表現力が充実した作。無理のない筆法が明るい作となった。(藤扇評)

(藤扇評)

現代詩文書 (一絃) 渋谷螢江 「順子歌」



渋谷螢江書

35×135cm

◆大らかな漢字の広がり、やや細線の響き合いがマッチしている。最後のブロックと落款の組み立て一考か。(和楓評)

(和楓評)

創作の部(47点)

漢字 4点

かな 10点

現代 20点

篆刻 0点

前衛 13点

臨書の部(30点)

漢字 30点

かな 0点

総出品点数

77点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

四枝及川 豊流

〔かな〕

卯月 木村 閑泉

うる 橋 由華

奥田 犬飼 杏華

〔現代詩〕

植松 梅田 紅雨

玄宮 尾形 紅霞

炎佳 伊藤 瞳

掃雪 大西 香蘭

〔前衛〕

大拙 佐藤 陽子

白珠 高原 梨秀

四谷 鈴木 白鷺

〔臨書の部〕

〔漢字〕

紅瑤 原島 春汀

澄春 土屋 恵仙

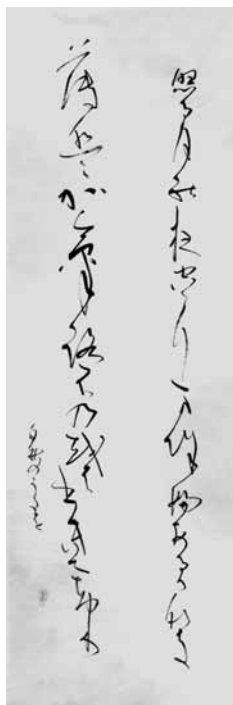
東総 薄田 春緑

幕張 高橋 賢雲

春汀 佐々木 淳子

大雲 松永 香秋

かな (潮音) 齋藤杏邑 「照る月」



齋藤杏邑書

180×60cm

◆リズムミカルな運筆が心地よい。料紙に合った墨色で、二行がうまく呼応し合い余白の生きた作品です。(東舟評)

現代詩文書 (宗苑社) 茂木絢水 「世羽子の詩」



茂木絢水書

85×85cm

◆上段のローマ字の渴筆が生きている。下段の細字は、多様な線がリズム良く魅力溢れる作となった。(和楓評)

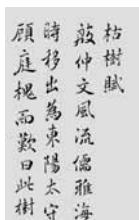
臨書 (千葉) 竹浪叙舟 「枯樹賦」



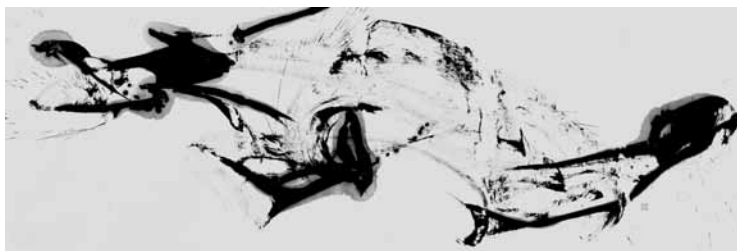
竹浪叙舟臨

52×180cm

部分拡大



前衛書 (白珠) 相内沙莉 「追風」



相内沙莉書

60×180cm

◆線の魅力が豊かな表現を増し、原帖への鋭い眼が物を言う。日頃の取り組みに敬服します。(藤扇評)

◆左から右へと濃墨の豪快な書きぶり、中央部の渴筆が効いて雄大な横作品となった。今後を期待する。(仙草評)

創作の部(36点)

漢字 1点

かな 5点

現代 11点

前衛 19点

臨書の部(17点)

漢字 15点

かな 2点

総出品点数

53点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

「かな」

水壑 伊澤 香雨

如月 治田 芳江

「現代詩」

うる 今関 心華

橙園 鍵 紫苑

千葉 渡辺 秋湖

「前衛」

玉州 角張 芳蘭

紅瑤 佐藤 成美

松風 西條 松雲

容洲 阿部 邑里

(臨書の部)

「漢字」

もく 森田 藤谷

大雲 江本 興舟

紅瑤 木暮 千晶

春城 東原 春城

紅瑤 相澤 敦子

「かな」

英峰 吉瀬 彩雨

漢字研究部
(枯樹賦)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



阿部 雅 悠

漢字研究部 特選 阿部 雅 悠

俯仰法を意識したり、抑揚の変化を求めたり、自然でおおらかに書こうとすると、一字をまとめることも難しい枯樹賦。日々努力し書に向き合っていることの伺える線質です。四文字を紙面にしっかりまとめ上げました。

◎漢字研究部総評

①字形や作品の特徴を捉える、②俯仰法をマスターする、③できるだけたくさん書き進

める、④気脈筆脈を大切にリズムを掴む、⑤一字一字を形よく書くとか、息を詰め集中して書くのではなく一枚の半紙の中にドラマやストーリー性を持たせるが如く、⑥虚画を意識しながら、大らかに伸びやかに線が書けるようになるまで計画的に練習をする。ということ、反復できたら「楽しい」と思う場面が増えそうです。

斯之謂矣

河陽一縣花

斯之謂矣

斯之謂矣

歌曰建章三月火黃河千里搖若非金谷滿園樹即是河陽一縣花桓大司馬聞而歎曰昔年移柳依漢南今看美臨

變衰

翠沙岳 沙緒理 美沙 秀岐 岳莉 舟

若非金谷

昔年移柳

搖落 彌嗟

長年 悲斯

既傷 搖落

長年悲斯之謂矣乃為歌曰建章三月火黃河千里搖若非金谷滿園樹即是河陽一縣花

美良睦 陸月章 雅芳 惠泉 竹鳳

斯之謂矣

昔年移柳

蕪沒荆扉既傷

窮巷 蕪沒荆

長年 悲斯

長年悲斯之謂矣乃為歌曰建章三月火黃河千里搖若非金谷滿園樹即是河陽一縣花

四玉裕 葉峰 美衣 美龍 麻子 葵子

落長年 悲

彌嗟 變衰

斯之謂矣

陽一縣花

謂矣 乃為

昔年 移柳

櫻藍正 智景 千水 空

かな研究部
(石山切伊勢集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



宇田川 春華

平安時代の古筆の集大成である「西本願寺三千六人家集」。伊勢集(石山切)の書風をよくとらえ、集中力を切らさず典雅な趣を醸し出しています。筆先に力があります。

◎かな研究部総評

古筆の漢字に常に注意、考察して下さい。「殿」[納]を正しく理解し、臨書することが大切です。作品の潤渾の線の見分ける力の差が出たようです。

かな研究部 特選 宇田川 春華



ト和嘉
ミ
子美江

藤森和
風城子

耶芝幹
衣香生

佳里良
月美泉

かな研究部成績表

大誠有	水大埕	昌春	天祥	紅風	東伯	蒼陽	龜海	石習	清月	清月	千葉	清月	玉松	東松	惹春	意書	楓書	澄書
雲和	秋海	苑汀	紫棠	璋風	伯伯	陽陽	泉海	習習	月月	月月	葉葉	月月	松松	松松	春春	書書	書書	書書
磯石生	石駒	飯泉	安藤	青木	吉田	佐村	北里	中里	田畑	山本	村上	山本	梅原	高橋	根岸	松丸	飯島	七小
清甘	洋菽	花子	美松	悠松	綾子	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志	登志
紅瑤	佳	京橋	千生	誠和	上春	たか	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉	上泉
藍澤	作	吉田	安藤	松原	福原	深早	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根	濱根
白桃	佑	砂喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜	喜喜
洞た	京光	松村	入	如	明幸	己華	春聲	中聲	大高	高華	上華	大華	大華	大華	大華	大華	大華	大華
安雨	東川	青木	綿吉	吉田	山本	山本	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野	宮野
菅須	新行	庄下	清水	田水	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
昌一	瑞味	代紀	貴悦	陽龍	美知	花霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞	霞霞
選芳	竹祥	や高	桜崎	あ生	こ黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎	黎黎
100	名	氏	信	蘭	美	律	登	紀	津	洋	綾	佳	華	清	泉	牧	流	喜
名	氏	信	蘭	美	律	登	紀	津	洋	綾	佳	華	清	泉	牧	流	喜	喜
名	氏	信	蘭	美	律	登	紀	津	洋	綾	佳	華	清	泉	牧	流	喜	喜



(第二鼓・汗鰓篇) 汗鰓沔々。沔々／皮淖淵。鰓／鯉處之。君／子漁之。漢／又烹。其旃

● 烹：「小魚」の合文。二字を一字のように書き表わしたものを。石鼓文には「小魚」「二日」「小大」「五日」の合文を見ることが出来る。

 と(東)	 ち(地)	 そ(處)	 す(春)
 な(奈)	 つ(徒)	 た(堂)	 す(春)
 な(奈)	 つ(都)	 た(多)	 す(数)
 な(奈)	 て(言)	 た(多)	 そ(所)
 な(那)	 て(天)	 ち(知)	 そ(所)
 な(那)	 と(登)	 ち(千)	 そ(曾)

け(進)	き(支)	え(要)	あ(阿)
け(希)	き(支)	お(於)	あ(應)
さ(敵)	く(久)	お(於)	い(以)
さ(佐)	く(具)	か(可)	い(以)
し(之)	く(救)	か(閑)	う(宇)
し(志)	け(介)	か(鹿)	う(宇)